

ダンスの競技会と審査員 1.

私の長い選手生活とコーチャーとして、常に頭から離れなかった事柄を出来れば皆さんと共に考え、議論してみたいと思っていました。

反論・異なるご意見も大いに歓迎いたします。但し、無意味な「茶化し」や非建設的な「単なる批判」は、当方で削除させて戴くことも有ります。

第1回は、ダンスの競技会と審査員についてです。

選手であれば誰でも自分の踊りの正当なる評価を期待する筈です。最近、競技会の審査や結果についての批判が選手だけでなく観客の皆さんにも強く有ることは事実です。

ダンスの競技の審査は、確かに「主観」が強く働き、「客観的」に見られない欠陥が大いにあります。後日、議論したいと思います。が、「オリンピック」に採用される為には、今の審査制度・競技体系を大きく改善しなければならない事は常識でありましょう。

他の競技で、コーチャーが審査員を兼任しているものは有りません。

その為か、審査の不正が常に話題になっています。

選手や観客にとって、不公正な審査は受け入れられますか？

私が選手であった頃、自分が良い踊りをすれば良い成績が付いてくるもの、と信じて踊っていました。もし、それが一部の人達(審査員)が裏工作をして結果が変わって来てしまったとしたら、真面目な選手は「やる気」を失くし、お客さん方も競技会から逃げて行くことは明らかでありましょう。

私も選手の頃、世界選手権大会当日の午後に行われた日本代表選手を決定する「全日本選手権」で裏工作が行われた事実を後日知らされました。

それは、世界選手権の後に行われた「名古屋大会」の後、大阪に向けて車で移動中の車内で交わされた会話の中であったそうです。

「斎野君ごめんよ！ハラケっちゃんに頼まれて小島組に1位を3つ付けてくれ、と言われて篠田組に3を付けられなかったの、君に3位をつけたのや」と、その方に頼まれたことも聞いたそうです。

私は、直ちに同乗していた永吉先生に確認に行きました。先生はそれを認められ、その上、当日、H審査員から「3つでは足りないから4つ付けてくれ」との話も聞いたのです。

その予選会を兼ねた「全日本選手権プロラテン」は7名の日本人審査員と海外からの2名によって行われたものでありましたが、後日、ダンスと音楽誌で確認したところ、確かに、原審査員と植松審査員が種目は異なるが4つの1位が小嶋組に与えられていました。

他の7名の審査員は全ての5種目を私に1位を付けておられましたので、私の優勝には影響はありませんでしたが、2位が小嶋組、3位斎野組となってしまったのです。

当時のルールでは、主催国は、代表選手を3組出場させる事が出来ることになっていましたので、篠田、小嶋、斎野の3組が出場、本大会では、私たちと斎野組が決勝戦に進み、小嶋組は準決勝止まり、の結果となりました。

私は、今後このような思いを選手に味合わせたくない、との決意を持って選手生活を引退したものです。
それでは次回、比較的新しい審査員の不正について！